

## B—45 久留米緋の染色堅牢度について

福岡学芸大 田中 登美

1. 現在生産されている久留米緋の染色は、①天然藍の醱酵建、②天然藍と合成藍を併用した割建法、③合成藍のハイドロ建、④ナフトール染色が用いられている。①は殆んどのが、重要無形文化財指定の製品として僅かしか生産されていない。一般の消費者向きは②③④であるが、④はその生産量は極めて少ない。今回消費者の立場から、これらの染色法による染色堅牢度について試験してみた。

2. 市販晒を試布として用い、上記四つの染色法により、試料を調製した。天然藍の醱酵建及び割建法による醱酵建は、業者の藍がめを利用して貰い、天然藍は20回、割建法は10回染色した。合成藍のハイドロ建は15回酸化を行なった。J I S規格により、日光、洗たく、水、摩擦、汗に対する堅牢度も試験した。日光は第二露光法による日光照射、洗たくは機械法、水は16時間浸漬、摩

擦はクロックメーターを用い、汗はA法によった。

3. ①日光堅牢度は、各染色とも優れているが、特に天然藍は優秀である。②湿潤摩擦はナフトール以外は、グレースケールによる判定が不可能なほど堅牢度が低い。③割建及びハイドロ建は天然藍に比べて、日光、洗たく、汗に対する堅牢度は低い。ナフトールは天然藍に比べて日光においてやや劣り、湿潤摩擦及び水堅牢度がよく、他は同程度である。